

911.3
八
春

古
四
子

香

稲みの心きつとくふくさくさく
 しんよきしんしんしんしんしんしん
 にかきかきかきかきかきかきか
 ほらほらほらのほらほらほらほら
 くらくらくらくらくらくらくら
 文化九年上旬月 加茂屋書

附言

一 己の身重の家持家と紐着をたはむに
 浪家一かふむたふひ一世末なるをあらわ
 第其の書よりうへにかりかたにわかありて
 なるなり形はけきく日暮くし持家のお林家
 違ふぬそれみち又庵室の侍より小まを
 違ふくしてそのの昔後と安置ひおれ
 子にけりおおるけきより像宗をたはむ
 ころの文化の集実より年になはむとて
 しへて又く文化の言ふた乃人の名

十五丁 雪解 春冰 春霜 餘寒 春寒 十六丁 河還

春日 十七丁 永日 遲日 春采 春空 霞 陽冬

十八丁 春風 東風 十九丁 春雨 二十丁 春水 水溫 廿二丁

春海 春野 春山 廿三丁 鶯 廿四丁 鳥轉 松崖鳥

白魚 廿五丁 猫恋 廿六丁

二月 廿七丁 初雷 風 初午 涅槃 聖靈會 廿七丁

春月 廿八丁 臘月 臘夜 廿九丁 春夜 烟打 接木 卅一丁

初櫻 初花 系櫻 紅梅 卅二丁 椿 松花 菜花

卅三丁 菊植 蕨 土筆 獨活 蒲公英 蛙 蛙

子 蠶 卅三丁 田螺 蝶 卅四丁 春鳥 喚子鳥 白鳥

三目ノ二

鳥巢 卅五丁 春雁 歸雁 卅六丁 引鴨 雪雀 雉 卅七丁

燕 小鯨 海苔 蛤 蚰 卅八丁

三月 雛 汐子 寒食 安良居花 壬生念佛 卅九丁

花 四十丁 櫻 四十一丁 遲櫻 桃 四十二丁 連翹 躑躅 藤 四十三丁

山吹 四十四丁 木瓜花 茅花 萱 蚕豆花 芋植

萱 四十六丁 席杖 茶摘 雀子 鷹巢 子規巢 春

暮 夏隣 春惜心 春名殘 行春 四十九丁 三月盡

五十一丁

五春

雨風好居しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 飛揚いんりるるいんり好居しんりのりしんり
いんりのりしんりのりしんりのりしんりのりしんり
 揚しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 何しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 高しんりのりしんりのりしんりのりしんり
しんりのりしんりのりしんりのりしんり

擧堂

一ノ一

春好春好しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 梅しんりのりしんりのりしんりのりしんり
しんりのりしんりのりしんりのりしんり
しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 我しんりのりしんりのりしんりのりしんり

花好春

しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 花しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 采しんりのりしんりのりしんりのりしんり
 下しんりのりしんりのりしんりのりしんり

石臼はるすし川はるす花はるす
初春

元日
初春はるすし川はるす花はるす
元日

元日
初春はるすし川はるす花はるす
元日

元日
初春はるすし川はるす花はるす
元日

元日
初春はるすし川はるす花はるす
元日

元朝や四ツよたぐり一紙余 蒼丸

二日 三日

齒染素をまじりも見けり二日と 乙二
三日減ふ春やそはるす月はるす 成美

初鳥

今一夢をまじりも見けり二日と 樗牛

稲積

二日少くもはるすし川はるす花はるす 道彦

善水

善水も初瀬はるすし川はるす花はるす 月居

梅と松や春一番は梅は春 考例
内飾

左松より右梅をせり 四十種 道表
輪より梅をひり 川より

藁盒子

古道や松より 藁盒子 斗六

種俵

わらわらや色は青く波は白く 二

屠種

やま青く赤く人わら國は色

年禮

年礼やりしは 隅田川 完本

梅よりや礼者より 月居

初曆

新や柄は栴ん 道表

着衣始 簞始

筆書にさし 考例

ふれをえんやうそ 考例

破魔弓

く月弓やそめく 考例

節振舞

子時戸女節や中筆の猪送 秀淵

属歳

万葉内松きくさくさく来り 通彦

葉家おゆゆや梅杉葉ささ 月居

猿曳

相おれ猪うらに出き柳外 士朗

猪曳や相え下り次宿お松 定来

傀儡師

青葉の傘心よひつる傀儡師 月居

佐保姫

さ保姫や若酒の張り終り 道彦

春下

松風を鉢あやしけ春下 月居

子曰 小松曳

先ひり旅人あき子曰れ 成美

雪お薫おしり子曰れ

朝お火ハ替るれあき子曰れ 寿例

梅おれちりり終り小松川 成良

人日

人々皆や美菜好むハ何れ也 道彦
抄抄と初く人々七日丸 完来
七種

七種の菜をさすも雪好し 乙二
七くさや紙をさすも花人 完来
七くさや花束をさすも花子 奇淵
芥菜をさすも外名に忘る 完来
摘ましく終菜終代にさす けり
七齋 七齋粥

世の中一の菜をさすも 士朗

老好所ハ菜房も劣りし 乙二
新く子中もあつて 乙二
老くすくも菜をさすれは 乙二
美菜

蟬鳴好朝つりはく 奇淵
くさ好ねたもあつて 乙二
くさ菜も風を控ゆ馬好當
くさ菜もあつて 乙二
暗ハ草もあつて 乙二
鶏好子乃あつて 乙二
士朗

以筆端續於下如龜田川
白如乃きくくく初り
松竹内
道彦

字は戸やきちひまは松竹
士朗

小正月 小豆粥

長閑さ乃ついなあひり小正月
青洞

小豆粥此りりたはあひり
升六

浄忌

雲々々々中々浄忌
〇

喜柳はうまもさう浄忌
〇

橋坐

草薙

故郷のあんな道は子た前
道彦

梅の子は終るはうまは前

初学 若学

初学や忘れし文もさう
、

我の苦なりし学見ゆ提え
士朗

若学や忘れし学見ゆ
、

学学は一葉も老は十万宗
月居

春学

与くつひのあふれ目よかゝるまはれ子 徒然
 まはれ子にまはれしるまはれ子(人)
 少くくく人まはれしるまはれ子 道彦
 残葉もつれ付めりけりまはれ子
 暇に砂まはれ身まはれまはれ子 奇例
 るくくく一房枝もまはれまはれ子
 年まはれまはれまはれまはれまはれ子
 朝久まはれまはれまはれまはれまはれ子 士朗
 あふれしるまはれまはれまはれまはれ子
 ねまはれしるまはれまはれまはれまはれ子 樗牛

路 蓼

路まはれ蓼まはれまはれまはれまはれ子 定永
 夕風や折るまはれまはれまはれまはれ子 道彦

芥

芥まはれ芥まはれまはれまはれまはれ子 定永
 つれまはれ芥まはれまはれまはれまはれ子 道彦
 芥川まはれ芥まはれまはれまはれまはれ子

芒 芽

芒まはれ芽まはれまはれまはれまはれ子 樗牛
 暮まはれ芽まはれまはれまはれまはれ子

木芽

十年如石之水之形 木芽の 成る
やゝも此の梅の味も木芽の
朝に此の芽よりけり木芽の乳 升大
雨のや木芽を前以て梅の味 奇例
商人にけりよ道にけり

梅

毒草

花を食らば木の間は毒も梅の花 乙二
毒は花のやゝく日之れぬ山は
散らるる柄抄は下る小舟は

大草のや梅の山茶樹小本

山間はるるをうまくと梅の

大は虫の毒よりぬきぬれ

毒は花の味の子もたつ山は家

うききく六のぬ雁は毒もか

日けりねぬりけりぬ梅の花

月は花より十日より梅の花

花より夜も古くぬうめ花

一日も梅の目より梅の花

一は梅の梅の心老花袖

花のつゝ梅をぬき見たりけり 士朗
 昔は破や吹すをぬきうめは花
 子はやうな梅をぬきう梅は花
 山崎一 久長く梅をぬき
 梅をぬきふ咲けし梅は花一つ
 たふひは花のつゝ梅をぬき
 かへひは花のつゝ梅をぬき
 古き代は花のつゝ梅をぬき
 花の上や二人のつゝ梅をぬき
 まいふは花のつゝ梅をぬき

梅をぬきや花のつゝ梅をぬき
 澤山の月日は花のつゝ梅をぬき
 梅をぬき花のつゝ梅をぬき
 花のつゝ梅をぬき花のつゝ梅をぬき
 杖をぬき梅をぬき花のつゝ梅をぬき
 咲けし梅は花のつゝ梅をぬき
 秀のつゝ梅は花のつゝ梅をぬき
 梅をぬき花のつゝ梅をぬき
 花のつゝ梅は花のつゝ梅をぬき
 花のつゝ梅は花のつゝ梅をぬき

大は枝や小は枝下は毒はそれ 茶乳
 山里や 毒はさく口のいりるを
 梅のぬけはゆかに学はけりるれ
 白梅やよそは夕言はさるる
 春は夜はさくかきも梅はれ
 美はの梅一二輪はさるる
 すくぬたの窟は常に梅はれ
 山向や白梅おし家す
 島はさるれ一里とわさる
 人ほさるる面はりもり望はの梅

左はさるるさるるさるる
 西鏡は梅正月おしよきさるる
 雲をはく梅三尺は梅うれ
 梅う島や梅うぬたて二三日
 白梅は香の匂はさるる
 梅はさるる首飾は果はれ
 白梅や島よすむるる梅
 人ほ家八藤おさるる梅花
 神は梅やさるる梅はれ
 白さるる梅さるる梅はれ

白浪は梅屋は毒ハ咲はけり 道彦
 霜は梅増契は毒も白くへり
 才丈ハヤシこもり 仙や梅は花
 梅は梅をくちりてらんや
 襟はて抱子まをりや梅は花
 久しものいそいで イニ 梅は花
 霧もものおく月 イニ 梅は花
 山鳥は梅さうへいぬ日
 本毒はつちとあふく癖は花
 散るは梅のつよ梅はまじり

梅は子くまきわのちとまよ梅は花
 咲はつるや六 イニ 梅は花
 梅はつる人 イニ 梅は花
 何はつる イニ 梅は花
 散はつる イニ 梅は花
 西月 イニ 梅は花
 梅はつる イニ 梅は花
 秋は イニ 梅は花
 咲はつる イニ 梅は花
 散はつる イニ 梅は花

さきうは角すう木を梅はそれ 奇例
 枯きうまふかたれくうめはれ
 ちうしん梅は梢はうめは花
 聖塗はかうし小門や梅はそれ
 栗は木の落葉をうく雪は梅
 梅はそれ一本かきぬうめは花
 山里中人筆はうめは毒はそれ
 約うは結うてうまを毒は花
 おりうはうめかきぬ春は梅

折角は月をうめは梅
 かきぬく男木はうめは梅はそれ
 梅はそれ卵や虫は梅はそれ
 浪はそれうめは梅はそれ
 山はそれうめは梅はそれ
 つれなく梅はうめは梅はそれ
 梅はそれ梅はうめは梅はそれ
 折角はうめは梅はそれ
 出はうめは梅はうめは梅はそれ
 梅はそれ梅はうめは梅はそれ

柳

山田の景きく、夜に梅の枝く
 古の家を賣換りてくちかたれ
 梅の枝の動は初に虫かたれ
 毒毒人のかきまのりりり
 京行の心くちかたれ
 十五の月も左右の梅の
 朝の毒毒人のかきまのりりり
 青柳の八の枝のきくちかたれ
 是の世はかきまのりりり

柳の枝のきくちかたれ
 家のかきまのりりり

二人のかきまのりりり
 青柳の枝のきくちかたれ

柳の枝のきくちかたれ
 名残の雨のきくちかたれ

東のきくちかたれ
 いくちかたれ

柳の枝のきくちかたれ
 名残の雨のきくちかたれ

東のきくちかたれ
 いくちかたれ

田一枚致は屋きり一帯の如き
 子唐は葉の茂るに柳の
 青柳は中よりとらり朝明
 兎中きくこと六淋の如柳
 正月も本は葉を宗は柳
 正月は下戸くことあり柳
 七字は七期に一帯の如
 むじらりとねは葉は森を以り
 柳はくわきを人たる如
 室いよふはわくまの柳陰

青葉は由り少なきはいつ白
 柳もくしけつは葉白はまを
 唐は江も柳のりて葉は月居
 一とらりも春とねはまを柳
 青柳はやくも葉はまを柳
 青葉は秋のまを柳はまを
 門は葉はまを柳はまを柳
 長葉はまを柳はまを柳
 青葉はまを柳はまを柳
 青葉はまを柳はまを柳

春水 春霜
山うけわすきふりては田は浦 奇例
まはしと結ばさるはたの葉 奇例
雪はくまふ葉まきさるはたの葉 奇例

春水 春霜

餘寒 春寒

寺々お鐘下都ハ餘寒 奇例
我つ乃お顔しるは餘寒 奇例
ゆきくと雪ふりては餘寒 奇例

赤穂

多お尸お餘さるはあまのさるは 奇例
雁鴨お付くは餘さるはあまのさるは 士朗
つらつらおさるはあまのさるは 奇例
ひよおさるはあまのさるはあまのさるは 奇例
正月おはるはあまのさるはあまのさるは 奇例
解細おはるはあまのさるはあまのさるは 奇例

河

寸短間おはるはあまのさるはあまのさるは 奇例
毎お祭おはるはあまのさるはあまのさるは 奇例

ささゆりさきよ敷本は梅多し

春日

まはるや松葉のしほも面白し 杉並
東叡姑山の茂りし春日は 完本
まはりの風さわくはつゆけを 道彦
けりくし雲をわくまはる日 彦
春あやうしあり行のハまはる
まはるのまはるまはるまはる 升六
まはるの毎日まはるまはる
白は魚はひらきまはるまはる 斎岡

一ノ十七

まはるのまはるまはるまはる

永日 通日

日永しとまらばりや 鳩は巻 養乳
永日をとくねや 楓も花はさく 道彦
永日白や 漆は長く 大居外
永日見れおくらまはるまはる 升六
永本まはるまはるまはる 道彦

春榮

春榮しとまらばりや 鳩は巻 養乳
大佛は面はまはるまはる 士朗

春空

春の空は晴れわたる
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

霞

陽春

朝の霧は
山を隠す
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける
雨は
木を洗う
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける
月夜
星を照らす
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

山に霞が
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける
月夜

朝の霧が
山を隠す
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

雨は
木を洗う
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

月夜
星を照らす
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

朝の霧が
山を隠す
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

雨は
木を洗う
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

月夜
星を照らす
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

朝の霧が
山を隠す
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

雨は
木を洗う
鳥のさえずりが
心ゆくまで聞ける

中は好子の厄を癒すもつゝ
公兼の事と扱扱も心ゆく後
うけうの中をきかむ少き
聖公の事

春風 東風

聖公の出入り守りも聖公
聖公の事と扱扱も心ゆく後
うけうの中をきかむ少き
聖公の事
春風や空乃の舟を出入り
子等々の事と扱扱も心ゆく
春風や空乃の舟を出入り
聖公の事と扱扱も心ゆく後
うけうの中をきかむ少き
聖公の事

二十

白海や春のつゆも
儂少も七の秋も
とるういふけうも
春風は風と白松
吹きも春風は吹
小まらぬ松のつ
山寺や花散る日
ゆき水うつるも
夕東風は上す

乙二
斗六
橋至
七二
壽辰

春雨

草花も一色なりや春雨あり
 大粒の雨もやと云へば春雨
 春雨や木田の元中へ海は道
 春雨や川の浮出に池は舟
 雁のひひと春の空を渡る
 春雨や舟の帆を揺る池は舟
 ひづりのぬれぬ春雨は秋衣に
 春雨は中や却て山の形
 春雨と雨のけむり言はれ
 月居

ひとつこ筋廻りの春雨
 春雨の雨の地も春の雨
 春雨の雨使はるる物し
 雨の中へ降りて来る雨
 春雨や鴨の舌を濡らす魚
 春雨や三笠の山に
 春雨は春の空を渡る
 雨や舟に人なれど
 春雨や舟の帆を揺る池は舟
 起る舌の雨は

春水 水溫

春水あはれく白髪あはれ春水雨 道差
 春雨あはれく春水雨 橋下
 春水あはれく春水雨 橋下
 春水あはれく春水雨 橋下
 春水あはれく春水雨 橋下

一七九

春海

春水あはれく春水雨 道差
 春水あはれく春水雨 橋下
 春水あはれく春水雨 橋下
 春水あはれく春水雨 橋下
 春水あはれく春水雨 橋下

春は海鶴をくも捨り、月居
春は海鶴をくも捨り、月居
春は海鶴をくも捨り、月居

春野

春は野をくも捨り、月居
春は野をくも捨り、月居
春は野をくも捨り、月居

春山

春は山をくも捨り、月居
春は山をくも捨り、月居
春は山をくも捨り、月居

春は山をくも捨り、月居
春は山をくも捨り、月居
春は山をくも捨り、月居

鶯

春は山をくも捨り、月居
春は山をくも捨り、月居
春は山をくも捨り、月居

まじはれは咽とあやしく鳴りぬ 栞虫
まじはれは心さけりて 雲一けり
まじはれは寂けりて 初春の

鳥鳴

江村の夕暮も 寂けり鳥 栞虫

松麓鳥

ゆけり松の根に 暮し松の 栞虫

白魚

白魚の本陣より 暮る候に 栞虫

白魚の舟より 暮る候に 栞虫

栞虫

白魚の舟より 暮る候に 栞虫

くまの根に 暮る候に 栞虫

松の下に 暮る候に 栞虫

栞虫の 暮る候に 栞虫

栞虫の 暮る候に 栞虫

栞虫の 暮る候に 栞虫

栞虫の 暮る候に 栞虫

栞虫の 暮る候に 栞虫

栞虫の 暮る候に 栞虫

山一ツツの如くは梅は其の如くは 道彦
松は風流く葉梅は色は 升六
似し梅は其の如くは 道彦

二月

二月の如くは梅は其の如くは 升六
如くは梅は其の如くは 奇偶
如くは梅は其の如くは 乙二
如くは梅は其の如くは 道彦

二ノ廿六

初雷

凡中

初年

如くは梅は其の如くは 士朗

初雷は其の如くは 升六

凡中は其の如くは 乙二

凡中は其の如くは 士朗

凡中は其の如くは 道彦

初年は其の如くは 道彦

初午やまも押りし言はせ色 寺岡
初午や都々々々々々々々々々 乳母の言 橋坐

涅槃

寂寺や誓々々々々々上きき 福の像 寺朗
佛の心はつらつらつらつらつら 定丈
涅槃の心はつらつらつらつらつら 升云
大寺や眼と心と心と心と心と心と 寺岡
是れは心と心と心と心と心と心と 寺朗
福の心と心と心と心と心と心と

聖霊會

二、廿

花よりは眼炉は絆や 夜は糸 升云
空霞とあつとあつとあつとあつと 聖霊會 寺岡

春月

首をさへ断らば身はくもくもくも 橋坐
識道は毎葉まつくもくもくもくも 寺朗
白妙は伊吹よけとととととととと 月
翠のよのつととととととととととと 月
まは月さねまつくもくもくもくもくも 月居
まは月枯あふくもくもくもくもくも
よのよのよのよのよのよのよのよの 蒼帆

さるもたはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
さるもたはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
味増揚と見くらけりさるもたはさるもたはさるもたは
と也が―柿さるもたはさるもたはさるもたは
并け根かへりさるもたはさるもたはさるもたは
さるもたはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
亦はさるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
しはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
乙二

聯月 朧夜

きり鳥がはりの影さるもたはさるもたは
さるもたはさるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
雁さるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
さるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
さるもたはさるもたはさるもたはさるもたは
おりのさるもたはさるもたはさるもたは
梅はさるもたはさるもたはさるもたは
乙二

将りてはまきいにて 初木を 月居
日とて入れたむかへ初木を 養丸
初木をねいちりて初木大木聲
初木はちりて人より名をばり 道彦
いささうううううううううううう 奇例

紅梅

初木を大根たううううううう 成久
初木をけいふ佛よりたうけり 道彦
初木や紫より初木大木目たけり
初木や心おちりたうたうう 升六

椿

初梅よりまきハ恋を 崔久
初梅や紙たいてんを 養丸
初梅より鶺鴒たうまもめうけり
初梅やけいりて初木たけり

一春をとりてよううううううう 椿
春中た初木たうてや赤椿 養丸
初木かうううううううううう 道彦
一春は初木よりうううう 椿
うううううううううううう 奇例

甲桂花より形より花より

松花

意より花より形より花より
如月花より形より花より

菜花

菜花より花より形より花より
菜花より花より形より花より
菜花より花より形より花より
菜花より花より形より花より
菜花より花より形より花より
菜花より花より形より花より

菊植

白は花は散りて花は重なり 升六

蕨

此秋も花は葉より花は葉より 栲堂
土筆 獨活 蒲公英

花より花より花より花より
花より花より花より花より
花より花より花より花より
花より花より花より花より

蛙

蛙子 蟻

蒲公英や花より花より
花より花より花より花より
花より花より花より花より
花より花より花より花より

流へゆく影を思ふ心は 榎の 春風
 流るる生かす人の心も 鳴るる
 道も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 榎の ^{イハヒ} 心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 親の心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 何事と云ふ心も 花も 草も 花も 草も
 世にも 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 因に 榎の心も 花も 草も 花も 草も
 柳の心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 流るる心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も

二〇三

流るる心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 榎の心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 親の心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 何事と云ふ心も 花も 草も 花も 草も
 世にも 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 因に 榎の心も 花も 草も 花も 草も
 柳の心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も
 流るる心も 花も 草も 花も 草も 花も 草も

升六

田螺

日やもろかゆきをよむ曇江頼 青洲

おほいさ田り一むにむお泡 橋本

啼け田り一睡に揺振るる 道彦

蝶

相撲いねる〜をき夜けよ 青洲

まねらひい〜んらゆふて六 橋本

て〜おかりた影おう〜に 士郎

拍〜いさひに蝶おに〜さき 橋本

二二五

春鳥

うとわ〜はる〜一わ〜きあて下 月居

て〜おろわか前一把も門あけ 成英

ひ〜〜〜鳥〜〜もまけよ 橋本

飛〜〜〜う〜〜た〜お〜 橋本

春は鳥〜のつ〜持〜ゆ〜鳥 道彦

鳥〜り〜ま〜ゆ〜〜山〜ゆ〜 井上

ふ〜〜お〜れ〜〜ま〜ゆ〜 橋本

降〜〜ゆ〜分〜あ〜ゆ〜一ま〜ゆ〜 青洲

春は鳥〜ゆ〜〜〜も〜ゆ〜林〜ゆ 橋本

春雁の鳴くはすしは年々もはる雁

喚子鳥 白鳥

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁 升六

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁 士朗

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁 月居

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁 升六

鳥巢

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁 春河

鳥の鳴くはすしは年々もはる雁

春雁

一雷ふくはすしは年々もはる雁 升三

二月はすしは年々もはる雁 春河

三月はすしは年々もはる雁

四月はすしは年々もはる雁 乙二

五月はすしは年々もはる雁 月居

帰雁

浦はすしは年々もはる雁 春河

行はすしは年々もはる雁 道長

けしきおはるも戸たてはる雁

初をくつと里へは雨夜は雁はあ
あまの海を渡りしつゝとく雁 十七日 月居
よむにやむをたあひの山田は居
芦は芽はあふらんをわ田丁
つゝあゆむの田は居
啼きあをきあ申するんを丁
何れもあはれ先く雁はあはれ
十六日 一はあの一羽 十七日 雁はあはれ
かへる居るあはれあはれあはれ
あはれあはれ油はあはれあはれ
あはれあはれ

引鴨
月はあはれあはれあはれ雁はあはれ
丁啼きあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ
あはれあはれあはれあはれ

雲雀
引くく宗務あはれあはれ 池 小田は鬼

鳴きあはれあはれあはれあはれ 月居
山風はあはれあはれあはれあはれ 月居
あはれあはれあはれあはれあはれ 月居

雉

山一羽けやう七人七つ七く七鳴七く七 道夫
深松七け七ま七る七ら七く七鳴七く七 丹六

日七け七ら七や七け七い七ら七ま七の七雉七の七巻七 并阿

か七ら七あ七ら七ま七り七と七ま七ら七は七山七中七 、

ち七ら七あ七ら七雉七子七け七あ七ら七松七の七風七 し二

雉七子七け七あ七ら七馬七の七巻七 栞堂

海七の七雉七子七け七あ七ら七鳥七の七巻七 士郎

行七き七も七入七ら七ま七り七と七ま七ら七は七 月居

二ノ世

燕

白七さ七け七く七松七の七由七け七ら七ま七 成久

登七ら七命七投七出七ら七ま七り七 斎丸

大七滝七の七小七滝七の七巻七 、

ま七り七の七巻七の七巻七 、

四七の七在七ら七け七ら七ま七り七 室林

残七月七の七心七の七巻七 乙二

巻七は七す七、七あ七も七の七巻七 士郎

巻七、七我七も七か七ら七ら七 月居

袖七の七巻七 、

朝うけや美晴ふけ丘は宗 升六

小雛 海苔

曉は春押 けりく小雛うけ 壽延
海苔は上ふけりすすふくくた。 し二
けり葉も風う吹そよ朝けりけ

蛤 蛸

蛤といくもは海人入八年 道長
月は右は言ふもは蛤 奇例
松うけやまぬくしは蛸汁

三月

雛

三月は春うけりけを浦は山 升六
三月は春うけりけを浦は山 奇例

さけりのを裡いりく雛うけり 核坐
相けり戸戸袖さくしはけりあふ 月居
世居りまひりけりけりけりけり 養乳
市は雛小所うけりけりけりけり 定春
見せはけり四日けり雛は角田川
さけりけりけりけりけりけりけり 升六

離れ智量はふるも出さるる 青洲
ひびくつる小波やうらたのぞき

汐干

大も出く汐干お門とくはけり 登丸
人と呼ぶも汐干お文書に 升六
掃くも満もくもく三日に

寒食

寒食や下京の書お門 月居
この書もくもくお書に 升六

安ふ居花 壬生念佛

花

やすひお花あふ人上西いり 梅堂

山吹をたのむりもや 壬生念佛 青洲

白き花もくもく入花おり 士郎

朝お書やお花もくもくお書に

かきくお花もくもくお書に

池お花もくもくお書に

花七日のめもくもくお書に

お書に 花もくもくお書に

山里お花もくもくお書に

散花をいふ行ぬ又七首と月居
花より先本を接するより
ちふりし人泣きさうり花は
終つまゝそのも折れしつ葉は花
去るまゝの袖いふより花衣
大井川大井川の川や花はもろ
花より折れしつ葉は花は
朝日と心おろしと花は人
小室の川は花は花は
ひしと心おろしと花は

花は花は花は花は花は
人喜ばし花は花は花は
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は
かへはははははははははは
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は
花は花は花は花は花は

新の如くははは花は浮世の
門より花の如くはは花の如く
世の中は花の如くは花の如く
くはははははははははははは
はははははははははははははは

梅

我朝の如くはははははははは
聖や人の如くはははははははは
月を如くはははははははははは
折れたる花を如くはははははは

花の如くはははははははははは
我朝の如くはははははははははは
松の如くはははははははははは
山に如くはははははははははは
山を如くはははははははははは
また如くはははははははははは
散れたる花の如くはははははは
小僧も如くはははははははははは
散れたる花の如くはははははは
何れも如くはははははははははは

一、
 魚、
 本、
 行、
 唯、
 大、
 一、
 期、
 牛、
 四、

此

子、
 機、
 故、
 准、
 世、
 捨、
 古、
 中、

遷機

苑、
 二、
 本、
 中、
 苑、

桃

桃の花はさくらやさくらと
枝垂

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

花はさくらとさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

夕方の桃の花はさくらと
月居

桃 躑躅

桃の花はさくらとさくらと
月居

宗志とて山吹ちりや 桶於水 養乳
 山吹や 竹を年貢は一本葉
 山吹平一もらやと出さう 楊牛 杉坐
 山吹よりひらりあろ 多葉は烟
 山吹や ちりちりちり 是もちり 成
 山吹又 ちりちり 善好葉の心
 山吹はく ちりちり 葉はちり 奇洞
 山吹や ちりちり 葉はちり 奇洞
 山吹は ちりちり 葉はちり 奇洞
 山吹は ちりちり 葉はちり 奇洞

二ノ里

木瓜花 葉花

小葉はちりちり ちりちり 木瓜花 道彦
 清女子 ちりちり ちりちり 木瓜花 月居

莖

ちりちり ちりちり 莖はちりちり 道彦
 ちりちり ちりちり 莖はちりちり 道彦
 ちりちり ちりちり 莖はちりちり 奇洞
 ちりちり ちりちり 莖はちりちり 奇洞
 ちりちり ちりちり 莖はちりちり 奇洞

櫻は法螺 草つむる心つう死 二二
 花とこれ何所へ来しそちひきみ 梅坐
 古子好くも咲くようすはこれ 月居
 さ不細き草よかろ 二日 月
 草描んくあわくおもきうかろ
 海草草 濃草 春もこれかろ 升六
 蚕豆花 芋植 苜
 そく草花は花よあつる相好くけり 升六
 芋植く徳おし人好き火か 梅坐
 ちき草花よりあつる好かろ 升六

席杖 茶梅

川草の中席杖はきくおろし 奇例
 活先は杖のつらき茶梅

雀子

西より西の林は雀子とく雀子 定来
 竹草の中西の草は雀 奇例

鶯巢 郭公巢

鶯は巢の緑は林のつらなり 升六
 川風や子祝巢の鳴く杜のあ 定来

春暮 夏隣 春惜心 春は名跡

地ふりし誰よりひくまはるる 通夫
松枝はうけしるる 友とあはる
まをむむらむらしく 似るる 月居
おのひ中しきまらまはるる 栞堂

行書

ひきとるる 心く 録き 夫 奇例
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例

二〇四九

三月盡

聖つりし 春もけやを 春よけり
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例
ひきとるる 心く 録き 夫 奇例

俳諧新十宗類題集春部 畢

[Faded, illegible text on the left page]

三
氏
書

[Faded vertical text in the right page]



丁
辛

Handwritten notes at the bottom right corner

